

[ライブ・サーティ]

Live30

<https://www.omichikai.or.jp>

VOL.

230

2019年
冬号



(表紙写真はイノシシ年生まれの職員)

TOP MESSAGE

新年のごあいさつ 大道道大 (社会医療法人 大道会 理事長)

CLOSE UP

グリーンライフ20周年を迎えて

OMICHI ACADEMY

Neuroscience 2018(北米神経科学会)
平成30年度病院管理実務・実践講座 第2会合「コスト管理」

OMICHI SCRAMBLE

医療福祉連携士の資格取得しました
第2回ピンクリボンwith森之宮病院

INFORMATION

大阪脳卒中医療連携ネットワーク10周年記念事業が開催されました
入職医師・歯科医師のご紹介



最優秀賞
「Live30」
施設は常に自己研鑽を怠り、
最も優秀であったことを認め、
日々研鑽を怠りません。
日本製鉄株式会社

ごあいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

社会医療法人 大道会 理事長
森之宮病院 院長
大道 道大



まず、2018年に発生した大阪府北部地震をはじめ7月の豪雨、北海道胆振東部地震、また台風21号等により、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

当法人も、災害を想定してハード・ソフト面を強化してきましたが、地域との日頃からの関わりや私達が拠点を置く大阪市城東区における病院・診療所・行政の連携を生かした、災害に強いまちづくりも重要であると改めて感じました。

一方、医療・介護・福祉分野では診療報酬・介護報酬ダブル改定、新しい国民健康保険制度(運営主体を市町村から都道府県へ)、新専門医制度、地域医療構想策定等、変革の波が押し寄せた1年となりました。診療報酬・介護報酬ダブル改定では事前に方向性を予測し、当法人の機能・役割を改めて考え、柔軟に対応することができました。また、地域医療構想の策定では大阪府の構想推進として「大阪アプローチ」が注目を集めました。地域医療構想の実現に向けた議論は、関係者による「調整会議」で行われますが、民間病院が多い大阪府では皆が納得するよう地域の全病院が参加する「病院連絡会」を複数設置しており、行政・医師会・病院が一体となって取り組んでいます。

当法人内では、2016年より取り組んできた法人再編計画を昨年実行に移しました。ボバース記念病院の改修、森之宮病院の小児部門をボバース記念病院へ移行、森之宮病院3階病棟改修等、「当法人が提供していくべき医療・介護・福祉」に向けて第一歩を踏み出しました。特にボバース記念病院は、脳性まひ等の運動障がいがある方に対して乳児期から老年期まで切れ目のない診療を提供する日本初の施設へと大きく機能転換しました。新たに電子カルテも導入され情報伝達やデータ共有が容易になり、当法人の強みであるリハビリテーション医療に欠かせないチーム医療に大きく貢献することが期待されます。さらに、小児部門移行に伴う大規模な人事異動も行われ、職員が最大限に力を発揮できる環境を整えました。そして、今号の特集でも取り上げていますが、地域包

括ケアシステムで重要な役割を担う介護老人保健施設グリーンライフは20周年を迎え、11月には盛大な式典が開催されました。

また、地域包括ケアシステム構築へ向けた取り組みでは、森之宮病院が医療機関の連携機能を強化する「地域連携ネットワークシステム(もりりんネット)」を導入し、地域が一体となって患者さんの医療・介護・福祉を支えることができるようになりました。今年4月には地域住民の方々の多様なニーズにお応えするため、地域包括ケア病棟も開設予定です。それに伴い、法人内の在宅事業所も4月からURの森之宮団地内に移転し、訪問介護ステーションを新たに開設します。看護師・ケアマネジャーが24時間365日、森之宮団地に常駐し、将来的には相談や健康チェック、ICT見守りサービスを展開予定で、地域の人々の自然なつながりや独居の人々を支える仕組みづくりを支援していきます。

当法人は2025年に向けて、地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想を踏まえた役割・方針の検討等に取り組んできましたが、「2025年問題」は通過点としてとらえ、常にその先を見据えた組織づくりを心掛けています。一方で「働き方改革」関連法案成立による労働基準法の法改正が4月に迫っていますが、これを勤務環境の改善、医療の質の向上、患者満足の向上を図る好機ととらえ、法人全体で働き方の改善に取り組む所存です。今後ますます、ICTの活用や消費税率引き上げ、高齢者の人口推移がピークを迎える「2040年問題」等ヘルスケア分野を取り巻く環境は変化し続け、複雑化していきます。しかし、私達は地域特性を考慮した城東区ならではの医療提供体制を、行政・医療機関・地域住民と連携して構築し、支援の輪を広げていきたいと考えています。これからも、「私達が提供できる医療・介護・福祉」、「私達が挑戦したい医療・介護・福祉」、「患者・利用者さんから求められている医療・介護・福祉」の3つの視点を大切にし、地域社会に貢献できるよう精進して参ります。

平成30年9月に介護老人保健施設グリーンライフは開設20周年を迎えました
記念式典や、これまでの歩み、今後の展開を紹介します

グリーンライフ20周年を迎えて



グリーンライフ事務長
奥田 寛之

開設20周年記念式典

社会医療法人大道会介護老人保健施設グリーンライフは、平成30年9月に開設20周年を迎えることができました。11月11日には開設20周年記念式典・

祝賀会を開催致しました。式典には、東中浜連合町会、大道会モニター会・健康教室友の会、グリーンライフボランティア、周辺地域の介護保険事業所、各企業、そして大道会グループ職員をご招待させて頂きました。春に式典の開催を構想し始めた時は、何名の方に来て頂けるか不安でしたが、結果的には74名ものご来場者数となりました。

今回、会場の紙花や作品展示等をグリーンライフのご入所者や通所リハビリご利用者に手伝って頂き、職員と一緒に楽しみながら、おもてなしの準備を進めてきました。手作りの式典会場はとても温かみのある空間と、ご来場者の皆様からも好評でした。式典では、大道理事長、天野常務理事、濱田施設長にグリーンライフ開設の意義や苦労話、利用方法等を分かりやすくお話しして頂きました。祝辞では、モニター会の森中恵美子様からグリーンライフへの激励のお言葉を頂き、ご来場者は時に真剣に聞き入り、時に笑顔になる式典

でした。

式典終了後は立食形式の祝賀会となりました。東中浜地区を代表して、前年度まで東中浜地域活動協議会等でご活躍されていた大森勉様に元氣よく乾杯のご発声をして頂きました。グリーンライフ職員と合わせて100名以上が会場を埋めました。同窓会をしているグループや、名刺交換に一生懸命なグループ等、お酒の力も加わり、笑いの絶えない空間を皆様とても楽しまれました。

最後は、職員とご来場者全員で記念写真を撮り、全てのプログラムが終了しました。お見送りの際、皆様から「とても温かく楽しい式典でした」とのお言葉を頂くことができました。地域とグリーンライフの関係が一層強くなったと思える1日でした。ご来場頂いた皆様、おもてなしの準備をしてくれた職員の方々に感謝致します。



「困っている人を何とかしたい」がモットーの
濱田和孝施設長

地域とグリーンライフ 「20年の歩み」

平成10年9月25日、城東区東中浜にグリーンライフが開設されました。開設当初は、様々な理由で病院からすぐに自宅へ退院できない方を受け入れる「地域の中間施設」としての役割を担い、その歩みが始まりました。開設初年度から、介護サービスだけではなく、餅つき大会や夏祭り等、地域住民やボランティアとの関わりを大切にしてきました。またご入所者には、施設の中に入っ



開設時から続く夏祭り
地域の方々の協力なしには成り立ちません

平成12年に介護保険法が開始され、現在も続く入所、ショートステイ（短期入所）、通所リハビリテーションの3つ

の事業が全て契約事業となりました。施設内、法人内外のケアマネジャーとの協働にて、その人らしいケアプランの作成に取り組む日々が始まりました。

時は流れ、平成25年3月、新たな在宅サービス事業として、訪問介護を開始しました。施設内だけではなく、介護職員が地域へ出てケアをすることで見えない部分が多々あり、グリーンライフの在宅支援が加速しました。そして平成28年1月、在宅支援の強化により「在宅復帰支援型老健」の承認を受けることとなりました。

20年を振り返り、一時代りとも地域の力なくしてグリーンライフの成長はあり得なかったと思います。東中浜連合町会、大道会モニター会、周辺地区の介護保険事業所等、多くの地域の力と共に歩み続けることができた喜びを強く感じています。



過去、現在、未来、職員の力があればこそ
グリーンライフです

今後の展望

先ほど、開設当初は、病院と自宅との中間施設がグリーンライフの役割と述べました。しかし、地域包括ケアシステムが動き出した昨今、グリーンライフを含め、老健に求められる「中間施設」の意味合いが変化しています。入所を含めた各サービスについて、病院だけではなく、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等、実に様々な場所からの問い合わせが急増しています。また、自宅で生活していて足腰が弱くなり、1カ月だけ入所して、また自宅へ戻るといふ、自宅と老健を行き来する「交互利用」も多くなりました。グリーンライフは、介護保険分野において地域の様々な場所を中継する「ハブ施設」の力を強化していく必要があります。

この中継する力や、在宅復帰支援をより強化するため、平成31年の早い段階で「訪問リハビリテーション」事業を新たに開始する予定です。通所リハビリテーション、訪問介護と併せて、自宅を含めた在宅におけるご利用者の状況をいち早く把握し、ケアマネジャー等他職種連携を重視したケアの質向上に努めてまいります。

平成が終わわり、新たな元号の時代がすぐ近くまで来ています。グリーンライフも常に新しいステージへのチャレンジを続けなければなりません。その

ためには、常に職員一人ひとりが成すべきことを認識し、働きやすい職場であることが大切です。そして法人内外の各資源と協働し、地域に寄りそい続ける施設でなければなりません。グリーンライフが次の5年、10年、地域と歩み続けることができますよう、引き続き、皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い致します。



入所フロアでの20周年記念行事、とんちゃん一座に来て頂き賑やかな時間を過ごしました



デイケアでの20周年記念行事、ご利用者と一緒にマツケンサンバを踊りました

Neuroscience 2018 (北米神経科学会)

発表報告



神経リハビリテー
ション研究部
河野 悌司

**新しいバイオマーカーの
有用性を広めていきたい**

日程：平成30年11月3日～7日
場所：カリフォルニア州 サンディエゴ

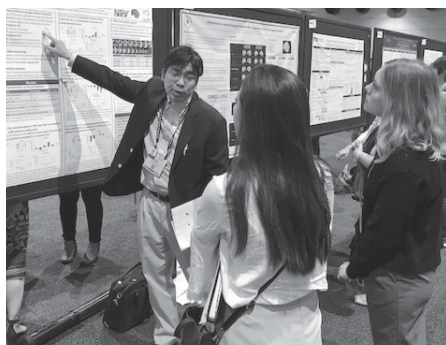
今回、私は米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された北米神経科学会(Neuroscience 2018)に参加し、「Assessment of neural networks related to post-stroke aphasia with the EEG phase synchrony index」というテーマで発表する機会を頂きました。本研究は、森之宮病院、大阪大学、理化学研究所および生理学研究所との共同研究として実施しているものです。脳卒中患者の重症度は通常様々な臨床指標を用いて評価されています。しかし臨床指標だけでは将来の回復を説明しきれないケースも少なからず存在し、脳活動を直接評価できる指標(バイオマーカー)の開発が期待されています。

我々は以前から脳波をベースとした脳波位相同期指数という指標を用いることで、ADL、上肢運動機能、半側空間無視等の症状が脳活動の位相同期と相関していることを明らかに

してきました。今回は左半球損傷の症状である失語症について検討を行いました。ご存じの通り失語症は重要な症状なのですが、これまで脳活動のバイオマーカーについての報告は限られた数しかありません。検討の結果、左半球のみならず右半球を含むネットワークの位相同期指数が失語症の重症度と相関を示すことが明らかになり、今回の学会で発表する運びとなりました。

2018年の北米神経科学会は世界73カ国から2万8691人の研究者が参加した大規模な国際学会でしたが、今年は偶然アメリカの中間選挙とも重なり現地は熱気にあふれていました。関心をもった国内外の研究者からご質問を頂き、有意義な発表でした。

今後とも研究を進展させ、森之宮病院発の新しいバイオマーカーの有用性を広めていきたいと考えています。



学会でのディスカッションの様子

平成30年度病院管理実務・ 実践講座第2会合 「コスト管理」

発表報告



ボバース記念病院
事務部フロンタサ
ー
ビス科主任
坂本 朋浩

**病院管理・運営について学び
視野を広げることができた**

日程：平成30年7月13日
場所：大阪府病院年金会館

今回、私が参加した研修会には近畿の病院を中心に、病院管理に関する職種の約70名が参加されていました。研修会は午前・午後の講座とグループワークを行う内容でした。

講師は、若弘会わかくさ竜間リハビリテーション病院局長の永易先生と東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科の川瀬先生でした。病院運営は病院の理念と基本方針を職員全員が理解することが始まりであると説明がありました。理念・基本方針に基づいて作られた事業計画を目標に職員が業務を遂行することが基本です。しかし、私自身、理念・基本方針が示されている理由や、理念・基本方針を考えながら仕事をすることがなかったのもので、反省したいと思います。当院は10月より新病院となります。大きな方針変換があったため、理念・基本方針、事業計画について理解し、個人で取り組むことや全体で取り組むこと、コスト管理等を考えていき

たいです。

また、医療原価が求められる背景の中で、経常利益・医業利益ともに半数以上の病院で赤字と報告がありました(平成28・29年度)。消費税の増税や光熱費の引き上げ、東日本大震災や東京オリンピック等による材料費の高騰等様々な要因で病院経営がひっ迫しています。病院経営は診療報酬が大きく関わっており、近年出来高方式から包括方式へ、また、人・設備から成果報酬等診療報酬の支払い方式の変遷がなされており、様々な変化の中で柔軟に対応し、継続性を保ちながら、病院運営を行うことは困難です。その中で、決断力と後回しにしないスピードが病院経営には必要だと感じました。

今後、自分がどのように大道会に貢献できるのか、社会情勢や患者さんのニーズ等の情報収集のために常にアンテナを立てて、行動することを心掛けていきたいと思っています。コスト削減を行うにあたり、コスト管理は一人では難しいため、職員一人ひとりへの意識付けが大切であり、また、コスト削減を過剰に行うことはサービスの質や職員のモチベーションの低下等につながるため、収支や長期的な計画等見据えた上でのバランスが必要だと感じました。今回の研修会に参加して大きな刺激を受け、また視野も広がることができ、とてもいい機会となりました。

森之宮病院

医療福祉連携士の資格取得しました

医療福祉連携士とは、2011年にスタートした日本医療マネジメント学会の認定資格です。地域の医療及び福祉の切れ目のない連携を図ることにより、限られた医療及び福祉機能の効率化を推進し、国民の医療及び福祉に資することを目的として創設されました。

地域医療連携室に従事する者として医療や介護の知識を深めたいと思い、講習会で医療・介護・福祉の知識を学び、また急性期病院（急性期医療、連携室業務、クリティカルパス）や診療所、介護老人保健施設、地域包括支援センターへ実習に出向き、現場を見学させて頂いて、平成30年

4月に資格を取得することができました。

講習で得た知識や実習で学んだことを今後の業務に生かし、地域の医療機関とスムーズに連携が取れるように努めていきたいと思っています。

（森之宮病院診療部地域医療連携室主任 服部亜希子）



認定証を手にする
服部主任

森之宮病院

第2回ピンクリボンwith森之宮病院

平成30年10月21日、今回も乳がん検査を受けられる日曜検診、ピンクリボンイベントを森之宮病院で開催しました。

毎年10月は、乳がんのことを知って頂くピンクリボン月間です。乳がん検診や乳腺センター・丹治部長による講演、触診モデルを用いた「しこり体験」、当院でのピンクリボン活動報告、クイズ等、参加者からは勉強になったとの声を頂きました。アロマハンドマッサージ

ジは院内職員に加え、院外からもボランティアの方が手伝いに来て下さり、昨年より多くの方に喜んでもらえました。また、ブレストカウンセラー岡さんによる着相談話も好評でした。今年の目玉は外部講師を招いての「折花」です。1枚の紙からできる美しいペーパーアロマディフューザー「折花」を素敵なカードにして持ち帰って頂きました。

「参加して頂いた方に笑顔に

なってもらおう」と、院内スタッフのみならず、院外ボランティアの方々の協力を得ることができ、イベントを通してたくさんの方にピンクリボンを知ってもらえたのではないかと思います。

（森之宮病院看護部外来 梅田真紀）



乳がん検診に関心を持ってもらえる
良い機会となりました

法人全体

再就業支援講習会を開催しました

平成30年7月25日に、再就業支援講習会を開催しました。この講習会はブランクのある看護師が安心して看護の現場で再就職できるよう、大阪府看護協会が平成26年度より毎年開催されており、それに共同企画させて頂きました。今回は12名の参加者があり、透析・施設・訪問看護についての講義を受けて頂いた後、グリーンライフで食事前の嚥下体操・理学療法士によるポジショニング・言語聴覚士による食事介助等を見学されました。その後、興味のある事業所へ分散して、採血・血管確保・訪問看護同行等の実地研修を受けて頂きました。

終了後のアンケートでは、再就職への不安が軽減した・安心した・興味がわいた・新しい選択肢が増えた等好感触の声を多く頂きました。

また、12名中9名の方が再就職に繋がりと、昨年の平均再就職率60%を上回る75%という結果でした。



2025年問題に向けて潜在看護師の復職支援強化が必要です。今後またお力添えできればと考えています。（訪問看護ステーション東成おおみち在宅事業部所長 竹島祐代）

さわやかな秋晴れとなった平成30年10月13日、「京都私立病院協会看護部長会 見学研修」を開催しました。参加者は総勢38名で、看護管理者の為の研修会でした。当日に向けて、理事長含め看護部が中心となり、参加者が達成感を感じ笑顔で帰って頂けるような研修会をめざし準備してきました。研修内容は、①大道理事長の講演：「民間病院と地域医療構想」、②福岡看護部長・田中看護部長：「看護部の取り組み」、③施設見学でした。

大道理事長の講演では、ユーモアあふれる、しかし、これからの日本・大阪・城東区の現状やこれらについて分かりやすく、また森之宮病院開院に向け、スタッフの意見を聞きながら、病室・トイレ・洗面台等現場感覚を第一に考え進めてきたリーダーシップについて話されました。両看護部長からは、ワークバランスについて、過去・現在の取り組みや成果、



森之宮病院の開院
当時について解説
する大道理事長

地域活動を主に話されました。メインの施設見学は、講演で話された事を確かめるがごとく、4グループに分けて質疑応答しながら和やかな雰囲気の中で、各フロアについて説明をしていきました。

限られた時間の中で、盛り沢山の見学会にはなりましたが、施設の機能や、仕事をしているスタッフの接遇・看護部の取り組みを生で見てもらい、研修目的を達成して頂けた事を期待しています。
(森之宮病院看護部7階西副部長 柴田まゆみ)



森之宮病院 登録医 紹介

28



はやし小児科

林 敬次 医師

大阪府大阪市城東区永田
4-6-11サンパーク1 1階
小児科、アレルギー科

林院長は、昭和48年3月に大阪市立大学医学部をご卒業後、大阪市立北市民病院および東成保健所でご勤務されました。その後、ご友人からの勧めで昭和54年から高槻赤十字病院へ入職され、平成19年まで小児科部長、リハビリテーション部部長を務められました。当時は小児科全般の診療をされていました。また薬剤評価や乳児の運動発達の研究等にも関わっておられました。子どもが育った地元で腰を据えて診療をしたいという思いのもと、平成19年7月にはやし小児科を開院されました。

「科学的な医療に徹していくこと、同時に親御さんのお気持ちをしっかりと汲めるような医療を提供していきたいです。お子さんにも自分から症状を話してもらったり、具合の悪いところをみせてもらえるようにお話をしています。 unnecessaryな検査は行いません。」林院長は科学的な臨床医学の研究結果を大切にされています。そのため抗生物質や検査は必要な分だけ行うようにされており、その確かな知識は国内のみならず海外からも認められているほどです。「心配していたお子さんが元気になってきてくれると安心しますし、診療をしていて一番嬉しいです。今後の目標は今までしてきたことをしっかりと続けていくことです。」と優しい、柔らかな表情でお話しされました。お休みの日は日帰り出身の和歌山まで奥様とドライブを楽しんでおられます。

最後に、大道会へ一言。「いつもお世話になっております。小児整形外科がボパース記念病院に移ると聞き、今よりも近くなるなど嬉しく思います。今後ともよろしくお願い致します。」

(森之宮病院診療部地域医療連携室 戸田梨香子)

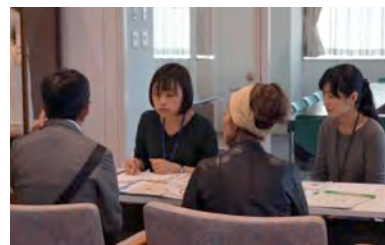
大阪脳卒中医療連携ネットワーク 10周年記念事業が開催されました

平成30年10月28日(日)、大阪市立総合医療センターさくらホールにて、大阪脳卒中医療連携ネットワーク10周年記念事業が開催されました。大阪市立更生療育センター利用者有志の「ハンドベラーズ」による演奏で華やかに開幕し、ネットワークの活動報告や、脳卒中予防・急性期治療・リハビリについての医師の講演を来場者が熱心に聴講されていました。同ネットワークに参加している各医療機関のポスター展示、市民相談ブースも設けられ、他機関の実践を学び交流する機会にもなりました。今後も、大阪市民の安心につながる脳卒中医療・リハビリテーションのネットワーク活動を強化できるよう取り組んでいきます。

(森之宮病院診療部医療社会事業課主任 佐藤美香)



森之宮病院のポスター展示



市民相談ブース(栄養士)の様子

入職医師・歯科医師のご紹介

森之宮病院に医師1名と歯科医師1名が新たに着任しました。7月には心臓血管センター(循環器内科)の西庵邦彦医師が、10月には歯科診療部の高崎義人医師が加わり体制が強化されました。今後とも、患者さんに寄り添った医療提供を心がけて参ります。受診をご希望の際は、森之宮病院またはボバース記念病院にお気軽にご相談下さい。



心臓血管センター
(循環器内科)
西庵 邦彦



歯科診療部
高崎 義人

ご寄付・ご寄贈を頂きました

西田 英作様(大阪市東成区)、後藤園子様(大阪市城東区)、西川 靖子様(大阪市城東区)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させて頂きます。

編集後記

休日は、健康維持のためウォーキングをしています。新しいお店を発見し楽しいです。万歩計を見て頑張ったと思いきやただの歩きとなっていますが、気分転換にはなっています。(ボバース記念病院外来看護部 笠松明美)

Live30【ライブ・サーター】
2019年 冬
vol.230

編集発行人／社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL.06(6962)9621
FAX.06(6963)2233

●本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

●職員行動モットー

親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない／よく説明する／連携する

■社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■社会福祉法人山手学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山手学園(保育園)

☎06(6974)7377